

減劫御書

御書新版 1968年9行目、13行目
御書全集 1466頁、13行目、15行目

通解

法華經に云わく「皆実相と相違
背せず」等云々。天台これを承け
て云わく「一切世間の治生産業は、
皆実相と相違背せず」等云々。
智者とは、世間の法より外に仏法
を行わず。世間の治世の法を能く能
く心えて候を、智者とは申すなり。

法華經には、「（法華經を受持し
抜いた人が世間のいかなることを
説いても）みな実相（仏法）に違
背しない」（法師功德品第19）と
ある。天台大師はこれを受けて、
「一切の日常の生活や社会の営み
は、みな実相に違背しない」（法華
玄義）と言っている。
智者とは、世間の法から離れて
仏法を行ずるのではない。世間に
おいて、世を治める法を十分に心
得ている人を智者というのである。

語句

「皆実相と……」

法華經法師功德品第19の文（法華經549ページ）。法華經受
持の功德である六根清淨のうち意根清淨の人が、世間のいか
なることを説いても眞実に適っている、との意。「実相」とは、
眞実ありのままの相。

「一切世間の……」

天台大師の『法華玄義』の文。「治生産業」とは、社会
生活を維持し、生産活動に従事するなど、世間におけ
る人々のさまざまな営み。